
軍手に恋して…

サダコレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

軍手に恋して…

【著者名】

サダコ
レ

N9847C

【あらすじ】

軍手を198円で買った僕。それは全然関係ないのだが…!!

(前書き)

意味不明なギャグ小説ですがな〜

よく道路に落ちてて居る軍手。何故あんなに落ちてて居るか不思議に思つたことはありませんか？でも今日はあの軍手についての話しではありません。馬鹿にするな！まあ前置きはその辺にしておいて、その軍手、実は都市伝説が非常に多いのです！あの有名な山内先生もいつ頃ついていた。

「あればワシが畠仕事をしていた時じやつた」。元々ワシはストリップが好きでのおへ。よく嫁さんに内緒でストリップ小屋に通つてたんじやー……」

その言葉を先生から聞いた時。
何故か先生と僕に同じ匂いを感じた。
ガンジダ。

（実は僕もストリップが大好きで、よく父親と一緒に通つてたなあ）

に間合いに入つていた！！

「は、はやいっ！！」
その言葉を発した瞬間から僕の記憶は飛んでいる。唯一覚えているとすれば、昨晩の山内先生はすごく優しく、僕が寝るまでそつと腕枕をしててくれたことだけだ！だが、そんな優しかった山内先生も今はいない。

僕は軍手に喋りかけていた。

「先生、まさか先生なんですか！？」
気がつくと辺りは暗くなり、軍手がキラキラと輝いている。

「なんでやねんっ！」

通りすがりのカナブンが突っ込んだ。もうムチャクチャだ！俺は何

を書きたいんだっ！！

「胸毛の成長速度が止まらない乙女座のあなた、きっと近々肘を垂

脱臼するでしょう…」

アナウンサーがこう語る。

夕日が眩しいと涙を隠した僕は、ホモに田覚めていたのかなあ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9847c/>

軍手に恋して...

2010年10月11日01時28分発行